



ツネグ #11

2025年7月号

皆さん、こんにちは。

国際連合が提唱する「Football for the Goals(FFTG)」イニシアチブに公式メンバーとして日本サッカー協会(JFA)が参画することとなり、6月9日に大阪万博で行われたその発表イベントに出席しました。

2022年に発表されたFFTGは世界的に影響のあるサッカーの力を通じてSDGsの認知度を高め、サッカー界における行動を変革し、目標達成に向けた行動や実践の促進、持続可能性、人権、気候変動対策などの推進を目的に設立されたプラットフォームになります。

JFAは2021年より社会貢献やSDGsの活動として「アスパス!」を行っています。たとえば人権であればリスペクトや子どもたちが安心、安全に競技を楽しめるセーフガーディング、環境であれば熱中症防止の啓発を含めた気候変動への対策、地域であれば防災、減災に対するこれまでの取り組みなど、それらをさらに一段階引き上げていく。そしてSDGs 17の目標を2030年までに達成する動きを加速させていきたいと考えています。国連との方向性は合致しており、サッカーをツールとして社会貢献ができることをもっと多くの方々に知っていただけたらという思いです。

5月末にドイツのヘルツォーゲンアウラハにあるアディダスグローバル本社を訪問した際に、彼らは単なる社会貢献としてではなく「Through sport, we have the power to change lives.(スポーツを通して、私たちには人々の人生を変える力がある。)」というブランドの信念を貫くために、自社の成長戦略の一環としてサステナビリティを

位置づけ、さまざまなパートナーと共に取り組んでいるという話を聞きました。

SDGs、サステナビリティは時代の要請であり、コミットしていくことは当然です。さらにその先に「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」というJFAの理念を推進していくために、サッカーファミリーの皆さん、パートナー企業の皆さんと一緒に歩んでいきたいという思いがあり、私が会長職に就任した際、すぐにサステナビリティの部署を立ち上げました。一人ひとりが関心を持ち、自分ごとにしてもらえるきっかけをつくるとともに、「アスパス!」で掲げる環境、人権、健康、教育、地域という5つの分野にしっかりと注力していきたいと考えています。

先日、Jリーグ特任理事でサステナビリティ領域を担当する夫馬賢治さんによる職員対象のオンライン講演がありました。最後にそれぞれ興味のあるテーマごとに分かれ「JFAができること」についてグループワークのディスカッションを行いました。私も参加しましたが、皆さんにより見識を深めてもらい、活発な議論を通してより自分ごととして捉えてもらえる有意義な時間になったのではないかなと感じました。

47都道府県サッカー協会をはじめ、全国の皆さんとも共有しながらサッカーを通じて、SDGs、サステナビリティの意識を一層高めていきたいと思っています。

公益財団法人日本サッカー協会 会長

宮市恒靖

会長の活動報告

2025年5月23日～6月19日(抜粋版)

5/25(日)～26(月)

JFA管理職研修(Jヴィレッジ)



JFAの経営層とマネジメント層で1泊2日の研修を開催。新たなトライでしたが良い成果を得られたと思います。今後は対象を広げて実施することを検討していて、サッカー界の発展につながるような人材強化を図っていきたいと考えています。

5/27(火)

Jリーグ理事会(Jリーグ)

5/28(水)

WEリーグ理事会(JFAハウス)

5/30(金)

アディダスグローバル本社 訪問(ドイツ/ヘルツォーゲンアウラハ)

5/31(土)

2025 UEFA Champions League 決勝視察(ドイツ/ミュンヘン)

6/1(日)

UEFA Friendship Cup(スイス/ニヨン)



U-18日本代表は、ポルトガル、セネガル、ウルグアイと同組になったグループを2位で突破。3-4位決定戦でフランスに敗れ4位で大会を終えましたが、欧州、南米、アフリカの同世代チームとの対戦は大きな経験になったのではないのでしょうか。今後もこういった取り組みを継続していければと思います。

6/2(月)

ヨーロッパサッカー連盟 訪問(スイス/ニヨン)



ヨーロッパサッカー連盟(UEFA)のマネジメント層、育成、技術、国際、戦略などの部署と充実したミーティングを実施できました。育成強化をはじめ、さまざまな分野でUEFAやその他の大陸連盟、国際機関との情報交換や連携を進めていきます。

6/5(木)

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs. オーストラリア代表(オーストラリア/パース)

6/9(月)

国連「Football for the Goals」イニシアチブへの加盟に関する発表イベント(万博協会メディアセンター)



SDGsのゴール達成にはひとりひとりの理解と協力が不可欠です。日々のサッカー活動にぜひSDGsを意識してもらえたらと思います。イベント終了後には翌日対戦するインドネシアのサッカー協会会長、副会長とお会いし、インドネシアのパビリオンを案内していただきました(写真)。

6/10(火)

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選) vs. インドネシア代表(市立吹田サッカースタジアム)



森保一監督のマネジメントのもと、SAMURAI BLUE(日本代表)の選手たちの間で非常に良い競争が行われていると感じます。FIFAワールドカップ本戦まで1年を切りましたが、さらなるレベルアップのために最大限のサポートをしていきます。

6/13(金)山梨、15(日)鹿児島

47FA訪問会議



両サッカー協会(FA)とも自主財源獲得について長めの時間を割きました。他のFAでも課題意識の高い分野で、われわれとしても各FAの成長に向けてしっかりと取り組んでいきます。9月にはFAマーケティングセミナーを開催予定です。

6/17(火)

JFA職員向けサステナビリティワークショップ(blue-ing!)



組織運営におけるサステナビリティ(持続可能性)についてJリーグ特任理事の夫馬賢治さんにお話いただき、サッカー界で社会課題にどうアプローチできるかをグループで議論しました。より良い未来のためにサッカーがどう貢献できるか継続的に考えていきます。

6/19(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2025年度第6回理事会が6月19日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。



決議事項

「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」を改正

国際サッカー連盟(FIFA)の規則に倣い、女性選手の保護規定の拡充を目的に「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」を改正することが決まりました。産休・養育に関する休業の権利を拡張させるほか、妊娠した選手の権利に関する規定と授乳機会の権利に関する規定の一部をそれぞれ変更し、月経に関連する健康状態を配慮した規定を新たに定めます。また、国内の期限付き移籍に関する規定についてもFIFA規則に対応して改正します。

報告事項

「2025/26サッカー競技規則」を改正

「第3条 競技者」に、「競技会は『キャプテンオンリー』のガイドラインを実

施することができる」と記載されました。キャプテンが敬意をもって行動し、適切に振る舞うことを条件に、主審は基本的にキャプテンに対して重要な判定を説明することができるようになります。また、ゴールキーパーが手や腕で8秒を超えてボールをコントロールした場合反則となること、その反則があった場所に近いサイドからのコーナーキックが相手チームに与えられること、そしてその8秒をカウントするとき、主審が片方の腕を上げて最後の5秒をカウントダウンすることが追記されました。

2024年度施設整備助成金および一括補助金(47FA/9地域FA)最終交付額

2024年4月～25年3月の施設整備助成金の交付総額は135,000,000円となりました。また、9地域FAへの一括補助金は最終補助金確定総額が339,430,875円、47都道府県FAへは1,719,845,336円になりました。

新たに1人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要なProライセンスについて、山梨県サッカー協会の技術委員長を務める西川陽介氏が同ライセンスを取得しました。これで2024年度受講生20人のうち19人が認定され、認定者総数は600人となりました。

Information

「SUPER GT MALAYSIA 2025」でSAMURAI BLUE応援グッズの販売ブースを出展

JFAは、6月26日～28日にマレーシアで行われるモーターレースのシリーズ戦「SUPER GT MALAYSIA 2025」で、主要スポンサーが集まるAutoShowcaseエリアにブースを出展し、レプリカユニフォームやタオルマフラー、日本ならではの法被などを販売します。SAMURAI BLUEをPRするとともに、アジアのファンとの交流をより一層深めたいと考えています。※5/26発表

「Football for the Goals」公式メンバーに参画

JFAは、国際連合が2022年に発表した「Football for the Goals」イニシアチブに公式メンバーとして参画しました。これは、サッカーの力を通じてSDGsの認知度を高め、サッカー界における行動を変革し、目標達成に向けた行動や実践の促進、持続可能性、人権、気候変動対策などを推進することを目的に設立されたプラットフォームです。今後、JFAはSDGsが目指す「誰一人取り残されない」世界の達成に向けた活動に一層注力していきます。※6/9発表

「最高の景色を2026」を合言葉に各種イベントを開催

1年後の2026年6月11日に開幕するFIFAワールドカップ26へ向け、「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」を合言葉にさまざまな企画をスタートします。※6/11発表



日本サッカー協会×日本漢字能力検定協会「全力蹴球プロジェクト」

- ・「今年の漢字」のJFA施設での展示
- ・「SAMURAI BLUE漢字検定」プリントの配布
- ・JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」に1997年「今年の漢字」第一位「倒」の大書(レプリカ)を展示
- ・「今、あなたに贈りたい漢字コンテスト『SAMURAI BLUEを応援しようキャンペーン!』」
- ・漢検漢字博物館・図書館での「最高の景色を2026」特別展示ブース設置など

「#1年後の最高の景色」SNSキャンペーン開催

サッカー日本代表公式Xアカウントで、SAMURAI BLUEへの応援メッセージ、自身が見たい「最高の景色」に関する投稿を募集

FIFAワールドカップ歴代日本戦をblue-ing!で放映

日本代表が出場した過去7大会の激闘13試合のフルマッチ映像をblue-ing!で放映

JFA公式ビアガーデン「BEER PITCH 2025」開催

6月14日から10月31日までblue-ing!の「PARKエリア」をビアガーデン風にリメイク。オリジナルステッカープレゼントなどの特典も

その他の主なニュース

- ・JFA×文京DREAM PROJECT「街とみんなの運動フェスvol.02」を6/21に小石川運動場で開催(5/23発表)
- ・Veo Technologies APSとJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結(5/27発表)
- ・「JFA×TOYO TIRESマルチススポーツチャレンジ2025 in 大阪」を6/8にJ-GREEN堺で開催(5/30発表)
- ・天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会の公式アンバサダーに三笥薫選手が3年連続で就任(5/30発表)
- ・「審判交流プログラム」イングランド、ポーランドより審判員を招聘(6/5発表)
- ・コモ1907 エリートパフォーマンスサマーキャンプへ2選手を派遣「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」(6/12発表)
- ・株式会社ICとJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結(6/12発表)
- ・6/7にJ-GREEN堺で実施したSAMURAI BLUE公開練習のチケット販売収益から「サッカーファミリー復興支援金」として3,238,649円を拠出(6/13発表)
- ・「JFAユニクロサッカーキッズ」を6/22に国立競技場で開催(6/13発表)
- ・「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」を6/14に石川県輪島市(町野地区)で開催(6/13発表)



JFA理事 川澄奈穂美さんを

マンマーク!

第11回は2011年のFIFA女子ワールドカップ優勝メンバーで現在はWEリーグのアルビレックス新潟レディースでプレーする川澄奈穂美選手との対談。現役選手でありながらJFA理事を務める川澄さんをマンマークします。

選手に不安を与えない、実現したい世界に向けて

宮本 まずは長いシーズンお疲れさまでした。

川澄 タイトルに挑むという目標を掲げた中で4位という成績でした。トップ3（日テレ・東京ベレーザ、INAC神戸レオネッサ、三菱重工浦和レズレディース）はやっぱり強くなって感じましたが、皇后杯は決勝まで進みましたが、手応えがなかったわけでもないシーズン。タイトルの懸かった試合を経験できたことは若い選手たちにとってもいい経験になりました。

宮本 (WEリーグの)副理事長という立場で携わることになって、今まで以上に試合を観る機会が増えました。徐々にリーグのレベルが上がってきているなとは思いますが。ただ(なでしこジャパンの)ニルス・ニールセン監督やリア・ブレインーコーチからは、ボールを奪いに行く守備とか、走力とかまだまだ改善すべき余地があるというフィードバックをもらっています。

川澄 WEリーグ全体としては総観客数が(昨シーズンより)増えました。注目される試合が少しずつ増えてきていると感じているので段々とスタンダードにしていけるんじゃないかと期待を感じられた1年でもありましたね。新潟はアルビレックスの知名度であったり、地元メディアに取り上げてもらえることであったりと恵まれているとは思いますが。認知はされているので、あとはどうスタジアムに足を運んでもらえるかが課題の一つだと思っています。

宮本 川澄さんにはJFA理事としての仕事もやってもらっています。われわれとしても女子サッカーを拡大したいという思いがある中で川澄さんの鋭い視点、意見はとても貴重。これまでの経験を踏まえた現役選手の立場から話をしてもらうことで、気づけない視点も多い。オンラインなので発言してもらう機会が少ないけど、もっと言ってもらいたい。

川澄 (理事の話)を最初にいただいたとき、女子サッカーに目を向けてくださっていることがとてもうれしかったんですよ。日本代表のときとはまた違った注目のされ方で『新聞で見たよ、理事になったんだね』って多くの方に言われて理事の重い立場をすごく感じましたし、あらためてしっかりやらなきゃいけないという気持ちにさせられました。

宮本 理事会で印象的だったコメントはマインドセットの話。WEリーグができて突然プロになった選手が実は多くて、プロとしての振る舞いとか、プロならこうすべきというところの意識が欠けている、と。川澄さんはアメリカで

もずっとやってきて、プロとは何ぞやというところを背中で見せたいし、だから(プレーヤーとして)頑張ると言ってくれた。マインドセットの部分は、リーグ側からのアプローチも含めてとても重要だと感じています。

川澄 (大学を卒業して加入した)INACではプロ同様の環境でやらせてもらって、先輩方からは『結果を残せなかったらここにはいられないよ』ってこんこんと言われました。プロとはこういうことなんだって学びましたし、全員がプロのアメリカではよりその経験ができました。自分が楽しくサッカーするだけじゃダメ。こうして日本に戻る機会をいただいたので、伝えられるものは伝えていきたいと思っています。

宮本 アメリカでは妊娠、出産を経てピッチに戻ってくるのがスタンダードとしてあります。

川澄 そういった選手は本当に多かったですね。シーズン中でも妊娠しましたという発表が当たり前であって、みんな祝福ムードなんですよ。産休の場合、給料は全額支払われます。出産を経て戻れる環境があるので何も不安はありません。日本だとお金の面どうなるんだろうとか、シーズン中に抜けるなんて思われなにかといろんな不安があると思うんです。

宮本 出産してチームに帰ってくるのが当たり前前だという、その安心感があるのとはいいえ全然違う。当たり前にしていく、そういう社会になっていく。われわれはそういうことを発信できる立場にあると思うので、実現したい世界に向けてしっかりと手を打っていくことが大事だと、川澄さんの話を聞いて思いましたね。WEリーグをどうしていくべきか、女子サッカーをどうしていくべきか、多角的に考えていく必要があるなかで川澄さんならではの視点を、これからも伝えていただきたいと思います。

川澄 2031年女子ワールドカップ招致の(要件が変更になった)ことは残念でしたが、今後日本に来てほしいとなったときにWEリーグの存在ってすごく大きいと思うんですよ。日本でも女子サッカーがこれだけ盛り上がっている、こののを見せていかないといけない。そのためにもリーグの選手たちに対して『見られているんだよ。プロなんだよ』と言い続けなきゃいけない。進化を続ける、挑戦を続ける日本サッカー界であってほしいし、私もサッカーファミリーの一員としてできることをやっていきたいと考えています。

川澄奈穂美 (かわすみ・なほみ)

1985(昭和60)年9月23日生まれ。神奈川県大和市出身。日本体育大学卒業後、INAC神戸レオネッサに入団。2008年なでしこジャパンに初選出、11年FIFA女子ワールドカップ優勝、12年ロンドンオリンピック準優勝、15年FIFA女子ワールドカップ準優勝。14年にアメリカのシアトル・レインFC、19年にスカイ・ブルーFC(現NJ/NYゴッサムFC)に移籍。23年からアルビレックス新潟レディース。24年、現役選手として初めてJFA理事に就任。JFAアスリート委員会委員。

